

10万人首切りの突破口を「60・3」攻撃に 「60・3」で反撃す



85. 1. 24
No. 1846

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労千葉千二百が 火の玉となり総屈服状況を突き破

国鉄再建監理委員会、国鉄当局が「分割・民営化」と「それまでの間に10万人の要員削減」の方向性を打ち出したことにより、国鉄労働者は一人の例外もなく労働強化、配置転換、首切り攻撃に直面している。「60・3ダイ改」こそ、その突破口の攻撃であり、国鉄労働運動が闘わずしてこれに屈するならば、本当に10万人首切りを許す結果を招くのだ。今日、国鉄労働運動総体が「再建」論議という敵の土俵にのせられ、何一つ闘う方針を提起できないばかりか、動労「本部」革マルにあつては「首を切られないために三本柱の実効をあげよう」「全員で出向しよう。休職しよう」といいなし、当局に代って首切りを推進している。こうした否定すべき状況を突き破る実力決起をつくりだし、なんととしても「60・3」攻撃に反撃しなければならぬ。労働者の明日をかけて全力で決起しよう。動労千葉は「60・3」を第2の「81・3」として闘うべく準備を開始した。佐倉支部、木更津支部の職場集会について、勝浦支部で職場集会、蘇我支部で乗務員分科総会がかちとられ、闘争体制確立にむけ奮闘している。各支部の取り組み状況について報告する。

「60・3」決起にむけ 各支部で職場集会開催

佐倉支部

1月16日、佐倉支部は昼休みに職場集会を開催した。本部から布施書記長、片岡執行委員が参加し、布施書記長から「60・3」をめぐる情勢が話された。参加者は、すさまじい労働強化と要員合理化を強制する「60・3」は認められないこと、「60・3」をめぐる労働組合の対応が「60・3」以後の攻防戦に大きな影響を与えること、従って10万人首切り＝国鉄労働運動解体を許さないために「60・3」を重大な決意で闘わねばならないことを意志一致した。

木更津支部

1月18日、木更津支部は本部から布施書記長、山口副委員長を迎えて職場集会を開催した。集会には組合員51名中46名が参加し、布施書記長から情勢報告と「60・3」の闘う方針が提起され熱心な討論が展開された。

蘇我支部

1月19日、蘇我支部は本部の布施書記長、西森本部乗務員分科会長の出席を得て乗務員分科定期

執行部から方針が提起された後の討論では「蘇我支区廃止＝派出所化」、「昇格」問題等で質問が出された。布施書記長、西森分科会長の答弁を受け、蘇我支区廃止を許さぬ闘いとして「60・3」に実力決起することを確認し成功裡に終了した。

勝浦支部

1月19日、勝浦支部は本部・水野副委員長、中村特執を迎え職場集会を開催した。50名をこえる組合員が出席し、冒頭、鶴岡支部長から「60・3」を中心とする今日までの取り組みと決戦段階を迎えた「60・3」を闘いぬく決意が表明された。つづいて本部の水野副委員長から「60・3」をめぐる今日の情勢と、1月10日に発表された国鉄当局の「経営改革のための基本方針」の内容と本質が明らかにされ、あわせて動労千葉の考え方と闘う決意が述べられた。

討論では、①「60・3」当局提案の仕業はひどい。同盟ですら時短を要求しているのに超勤交替など逆行もはなはだしい。絶対認められない。②「60・3」以後の「余剰人員」が問題だ。③交渉が進展しないがダイ検で討論したことがどう生かされるのか。④今闘わねばならないことはよくわかるが財政的にどうか。⑤一の宮出先における対面点呼は乗務員と検査係の相互監視だからやめさせろ、等々が出され、討議を深める中で「60・3」に決起する決意を打ち固めていった。

▲訂正とおわび▼ 『日刊』第一八四五号（一月二三日付）の旗開き徹電紹介記事
中、「日本原・奥哲雄」氏とあるのは「奥鉄男」氏の誤りでした。おわびして訂正いたします。